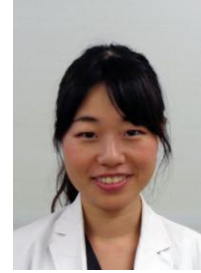


和歌山病院での実習を終えて



岡部 友香

今回、和歌山病院で呼吸器内科の実習をさせて頂きました。和医大のポリクリでは、外病院に行って学ぶという機会は滅多にありませんし、班で泊まりがけでの実習はこの機会にしかないので、新鮮な時間でした。

私が一番有意義な時間だと感じたのは、南方院長の胸部レントゲンのセミナーでした。4年生の時にも勉強しましたし、他の科を回った時にも胸部レントゲンはよく目にしますが、正直見方はあまり分かっていませんでした。まずレントゲンと影絵の違いは何かということから考え、レントゲンで線が出来るのはどういうことか学びました。その後、胸部にある組織を考え、正常の像がどう見えるのか学びました。南方先生の質問は今までされたことのない質問ばかりで、自分たちの頭で考えて答えることで、初めてレントゲンの基本を身につけられたように思います。考えて学ぶ楽しさを実感できた時間でした。今後は興味を持って患者さんのレントゲンを読影することが出来そうです。

呼吸器内科は、机上での勉強と実際の現場とでは感じ方が全然違うと思います。呼吸器は人が生きるのに重要な役割を持ちます。気道が閉塞するとか、肺が硬くなるとか聞くだけでは実際の患者さんの苦しみがあまり分からないと思います。今回、酸素マスクや鼻カニューラ、人工呼吸器を実際に体験させて頂き、患者さんが感じる苦痛を少しでも知ることが出来ました。患者さんの気持ちに寄り添う医師を目指すためには、患者さんがどう感じるか知っておくことは非常に大切だと思うので、貴重な体験ができたと思います。

また、駿田副院長の結核のセミナーでは、結核に対するイメージが変わりました。結核が空気感染のみ、医療従事者はN95マスクで予防するというキーワードは勿論知っていましたが、結核菌の持つ性質や感染のメカニズムはきちんと理解していませんでした。それを改めて教えて頂き、じゃあ感染対策はどのようにすればいいのかということの理解につながりました。外来で結核の患者さんを診るとき、飛沫が飛ばないように患者さんがしっかりサージカルマスクをつけてくれていれば、N95マスクを外して話すこともあるという話はとても印象的でした。感染の根本の部分を知るとは、自分自身の身を守ることにつながるのでとても重要です。駿田先生のおっしゃるように、しっかり病原体のことを知っていれば、感染に対する見方も変わってくるし、怖さも小さくなるように思いました。結核以外の感染症についても正確に知りたくなりました。そして和医大にはない結核病棟に入ったことも貴重な経験になりました。

最後になりましたが、南方院長、駿田副院長をはじめ、お忙しい中今回の実習に携わってくださったスタッフ皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。